

# 災害時における栄養・食生活支援活動

## ～穴水町での支援活動を中心に～



- ・人口7,363人 **高齢化率50.6%**（石川県30.7%,全国29.1%） R5.10.1時点
- ・**高血圧の有所見者**が県内で最も多い
- ・コミュニティ自治会、**見守り体制**が厚い
- ・プロパン、簡易水道、井戸水→ライフラインが自立している地域が多い。
- ・車など交通手段がないと不便

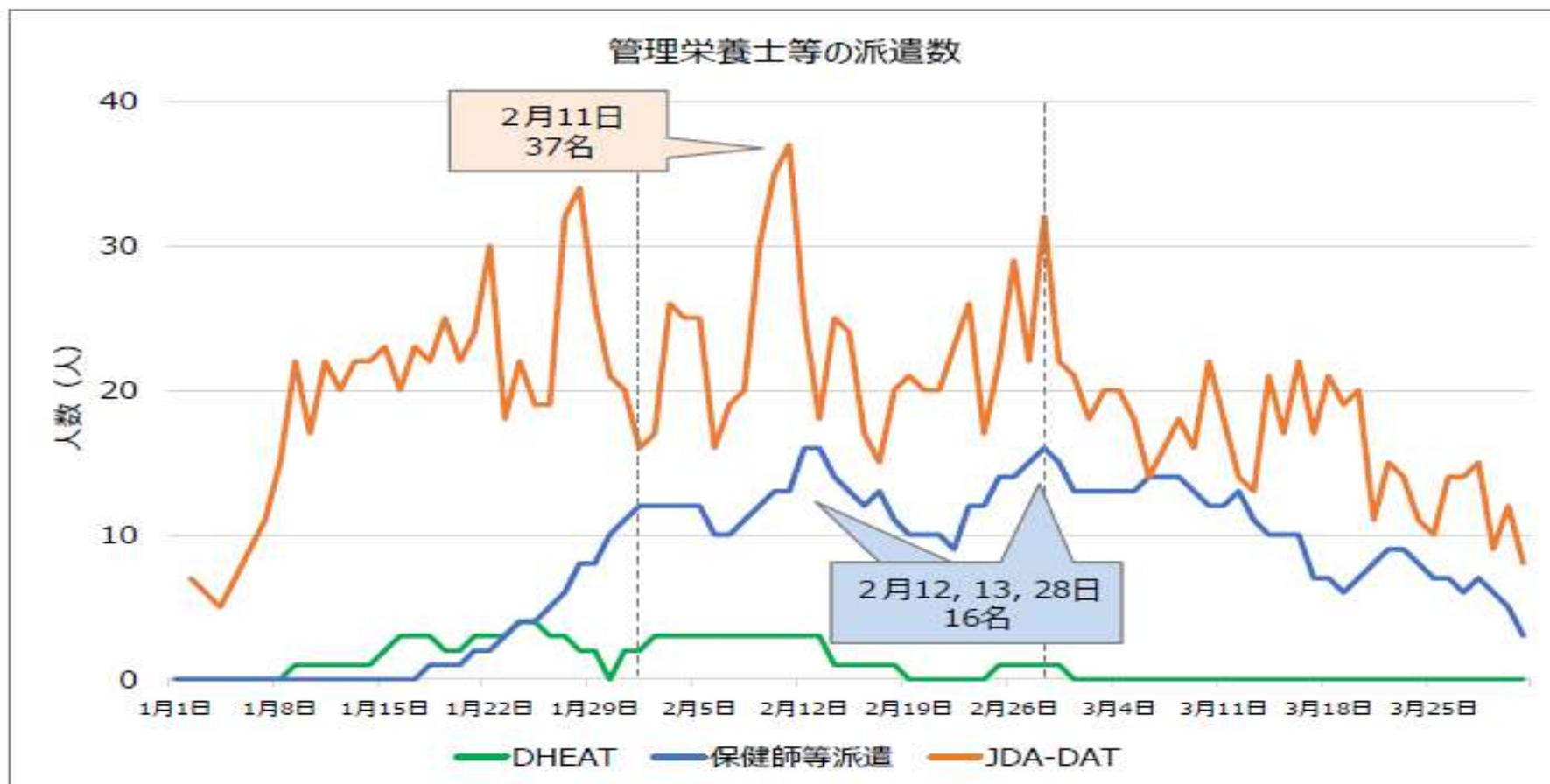
穴水町保健センター前（R6.3.20撮影）

兵庫県企画部計画課 諸岡 歩  
日本栄養士会公衆衛生職域理事（災害担当）

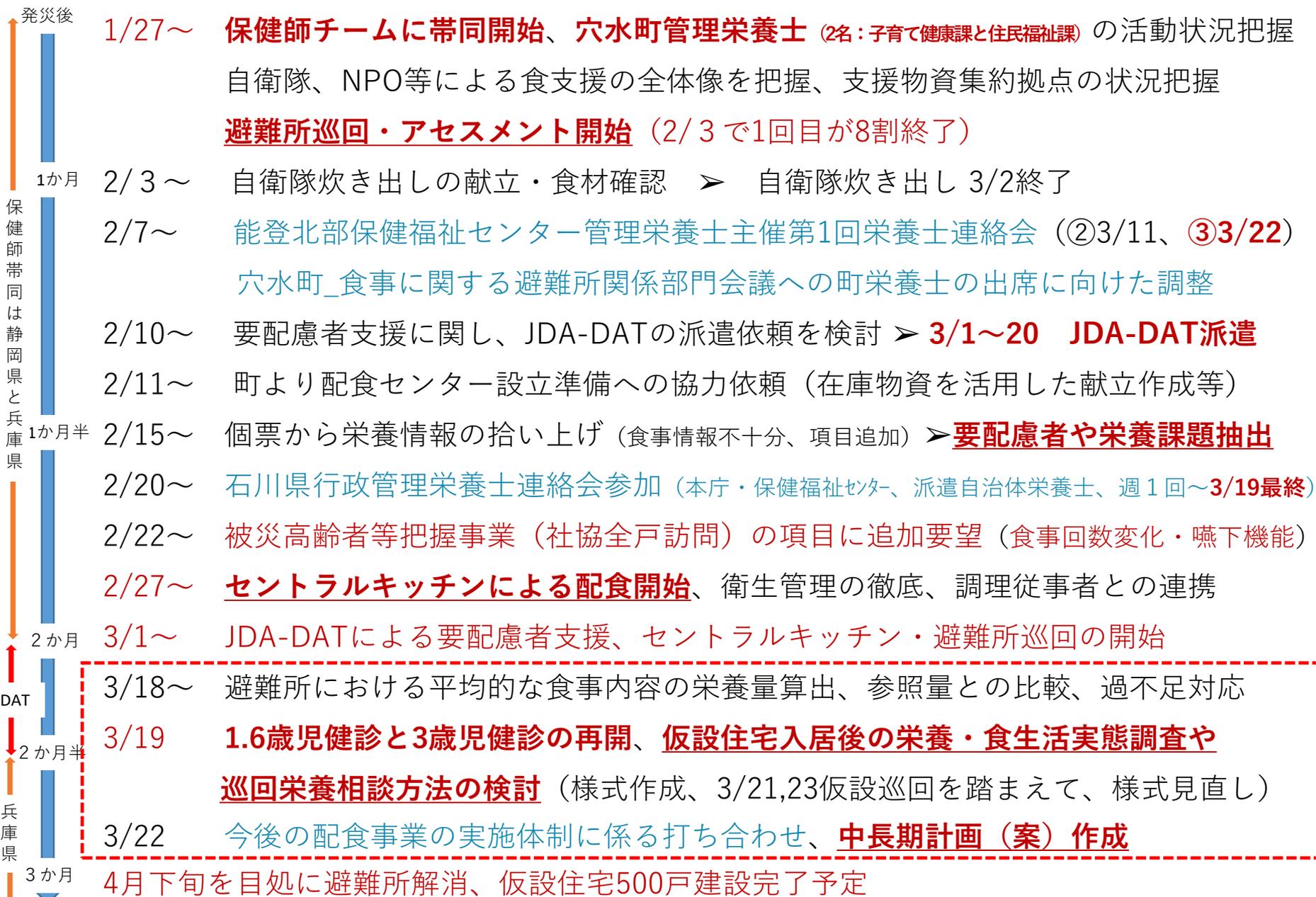
# 令和6年能登半島地震における栄養・食生活支援

○厚生労働省健康・生活衛生局健康課は、被災地の避難所等で生活する方への栄養・食生活支援について、**公益社団法人日本栄養士会に特殊栄養食品ステーションの設置等に関する協力依頼（1/4）**をするとともに、**災害時健康危機管理チーム（DHEAT）及び保健師等の応援派遣の枠組みを活用し、全国からの行政管理栄養士の派遣調整等**を実施した。

→**DHEAT派遣開始（1/9～）**、**保健師等応援派遣（管理栄養士含む）開始（1/18～）**



# 穴水町：兵庫県管理栄養士の活動 1/27～3/24 (1クール7泊8日,現地6.5日) **9名派遣**



# 災害時の栄養・食生活支援活動の マネジメント

標準的な取組方法の  
確立が必要

栄養  
アセスメント

- ・ DHEATや保健師チーム、D24Hから情報収集（健康課題、ライフライン）
- ・ 避難所食事状況調査票や個票等からの栄養量算出 等

進捗管理と  
評価

- ・ 栄養参照量比較、過不足対応
- ・ 自治体管理栄養士、JDA-DAT追加派遣要請
- ・ 中長期計画等

栄養・食生活  
支援活動の立案

- ・ 避難所栄養管理
- ・ 避難所衛生管理
- ・ 避難所格差是正
- ・ 要配慮者支援等

同職種間連携

（県・市町村、医療・福祉施設等給食施設、栄養士会等）

栄養・食生活  
支援活動の展開

- ・ 避難所巡回・食環境整備
- ・ 要配慮者栄養指導
- ・ 仮設住宅生活者自立支援等

資源確保と  
連携体制構築

- ・ 支援物資集約拠点と連携
- ・ 特殊栄養食品ステーション設置
- ・ 自衛隊、NPO団体、配食事業者等と連携した食事提供体制の構築
- ・ 他職種と課題やニーズ共有  
要配慮者支援等

避難所食事状況調査票

調査日	2021年10月30日(土)	記入者	あなたの所属A 氏名B 兵庫県 花子
避難所名	中央小学校	避難所区分C	□指定1 □その他2:
避難者数	避難者A:計(165)人 ?-【 □~50人1 □51~100人2 □101~150人3 □151~500人4 □501人~5】 在宅避難者等、食事が取りにける人の食数E:( 不明 )食		
対応してくれた方	氏名A: 神戸 太郎	お立場E	□避難所責任者1 □食事提供責任者2 □その他3:
食事提供回数	□0回 □1回2 □2回3 □3回4/日	飲料水	□なし1 □不足(1人1日1.5L以下)2 □十分3

保冷設備(冷蔵庫)A	□有り1 □有りだが使用不可2 □無し3
調理者の手洗いE 現状に□	□アルコール消毒、 □流水洗浄B □不明、
喫食者の手洗いC 現状に□	□アルコール消毒、 □流水洗浄B □不明、
トイレC 使用可能に□	□元のトイレ、 □仮設トイレ( )基、 □ポータブル( )基、
土足禁止エリアEに□	□調理スペース、 □避難スペースB □不明、
	□調理器具、 □人手J
使える炊き出し資源Fに□	□スペースK □食材、

避難所にいる要配慮者に□

人数把握が難しい場合は□のみでOK

⑧

⑨

⑩

その他

○野菜ジュースやLL牛乳の避難所の在庫状況について教えてください。

□野菜ジュース在庫 (  あり・ なし )

LL牛乳在庫 (  あり・ なし )

野菜ジュースやLL牛乳の摂取を勧めるポスター貼出し (  あり・ なし )

○麺類の汁、缶詰の汁などを捨てる場所の設定状況について教えてください

□汁を捨てる場所の設置 (  あり・ なし )

□汁を捨てる啓発ポスター貼り出し (  あり・ なし )

□汁をどのように捨てているか教えてください

[実施方法:(記載例)流し台に捨てている ]

[実施方法:

区分	朝 ⑪A	昼 ⑫A	夜 ⑬A	間食、菓子類 アルコール等 ⑭
□足りている1 □足りていない2 □提供なし3 □不明4	□主食(ご飯/パン/麺) □主菜(肉/魚/卵/大豆) □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻) □野菜ジュース等含む) □牛乳・乳製品 □果物	□炊き出し □弁当 □支援物資(調理不要) □備蓄品(調理不要) □その他J	□自衛隊 □栄養士 □その他: □いずれも関与せず □不明	
□足りている1 □足りていない2 □提供なし3 □不明4	□主食(ご飯/パン/麺) □主菜(肉/魚/卵/大豆) □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻) □野菜ジュース等含む) □牛乳・乳製品 □果物	□炊き出し □弁当 □支援物資(調理不要) □備蓄品(調理不要) □その他J	□自衛隊 □栄養士 □その他: □いずれも関与せず □不明	

その他E (宗教上のタブーがある人やその他問題点など)	□
不足しているものE	□
余っているものE	□

【チェックボックス(□)の下付き文字】  
アルファベット⇒複数回答可の選択肢、数字⇒択一式の選択肢

# 避難所の栄養管理

(ポピュレーションアプローチ)

## ① 1日2食以下の避難所がないか。

➤ 保健師チームやD24Hからの情報収集

## ② ガス・水道・電気は使用できるか。

## ③ 食事は何がどのように提供されているか。

➤ 配給、弁当、炊き出し（自衛隊、ボランティアなど）

➤ 栄養量の算出、参照量との比較、過不足対応

## ④ 衛生管理に問題はないか。

➤ 炊き出し実施者、被災者自身



物資集積所にて、栄養量の過不足対応可能な食品を選定

パターン1		エネルギー kcal	たんぱく質 g	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg	食塩相当量 g
朝食	菓子パン（ロングステック）	351	6				1
	野菜ジュース	75	2	3	1	190	1
昼食	カップ麺	421	10	0	0	1	5
夕食	弁当 中華丼	460	10	0	0	20	2
	とろろ昆布のずまし汁	14	0	0	0	0	1
合計（A）		1,321	28	3	2	211	9
国通知の参照量（B）		1,800	65	1	1	80	8
差（B-A）		(479)	(38)	2	1	131	2

# 「避難所における食事の提供に係る適切な栄養管理の実施について」

輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、七尾市、志賀町衛生主管部（局）長宛て  
石川県健康福祉部健康推進課長 事務連絡（令和6年2月27日）

被災以来、避難所の被災者に対する食事の提供にご尽力いただいているところですが、**被災後2か月を過ぎ、避難生活の長期化が予測される中、被災者に対し、栄養不足の回避、生活習慣病の予防、生活の質の向上等のために、健康・栄養状態等を踏まえた食事の提供や評価を行い、適切な栄養管理を図る体制の整備が急務**となっています。

については、今般、厚生労働省健康・生活衛生局健康課栄養指導室の技術的助言を受け、別紙のとおり、被災後2か月以降の**避難所における食事の提供のための栄養の参照量**をお示しするとともに、**食事提供に係る留意事項**を取りまとめました。避難所における食事の提供に当たっては、**管理栄養士の活用等により、長期化に対応して、メニューの多様化、適温食の提供、栄養バランスの確保、要配慮者に対する配慮等、地域や避難所の実情を十分に考慮し、食事回数や食事の量及び質の確保・調整を行い、適切な栄養管理に努めて**くださいますようお願いいたします。

## （参考）避難所における食事の提供のための栄養の参照量について

- 1 本参照量は、避難所生活が長期化する中で、栄養素の摂取不足を防ぎ、かつ生活習慣病を予防するため、栄養バランスのとれた適正量を安定的に確保する観点から目安となる量として提示するものである。
- 2 略

エネルギー・栄養素	1歳以上、1人1日当たり
エネルギー	1,800～2,200 kcal
たんぱく質	65～100 g
ビタミンB <sub>1</sub>	0.9 mg以上
ビタミンB <sub>2</sub>	1.0 mg以上
ビタミンC	80 mg以上

※日本人の食事摂取基準（2020年版）で示されているエネルギー及び各栄養素の値を基に令和2年国勢調査結果（石川県）で得られた性・年齢階級別の人口構成を用いて加重平均により算出

# 被災地に食と職を生み出すキッチン



## 穴水町\_セントラルキッチン(R6.2.27~)

- ・避難所での避難を継続せざるを得ない方が一定数残る。
- ・今後、炊き出しボランティアの徹底が予測される。
- ・野菜不足、たんぱく質不足、食塩摂取過剰等の栄養バランスに問題あり。

- ・穴水町が内閣府と協力して設置
- ・**穴水町管理栄養士が栄養バランスを配慮した献立作成**（支援物資も有効活用、毎夕食150食程度、）
- ・**能登北部保健福祉センターと連携**し衛生管理
- ・**町が地元飲食店組合に委託。**  
被災した飲食店の**雇用も創出**
- ・県外ボランティアの炊き出しが行き届きにくい小規模避難所にも食事を届けることで**避難所間の格差是正**



白米・加賀丸いものすまし汁・厚揚げのひき肉炒め

（特定原材料8項目、野菜の量、エネルギー・脂質・たんぱく質・食物繊維量・食塩相当量・ビタミンB<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、C、ナリウム、カリウム）



# 仮設住宅入居者への栄養・食生活支援

## ①保健師による初回訪問時に食事情報の把握を可能とする。

➤保健師と栄養士が共同して「**仮設住宅入居者健康相談票（案）**」を作成  
仮設住宅入居者へのプレ使用を経て、調査項目見直し

体重増減、食欲低下、喫食（朝・昼・夕）、緑の野菜（有・無）、たんぱく質（朝・昼・夕）  
自炊状況（週〇日）、口腔（硬いもの食べにくい、飲み込みにくい、むせる）

## ②管理栄養士による食生活実態調査・巡回栄養相談の実施（記録表作成）



食環境

自炊の回数	<input type="checkbox"/> 毎食	<input type="checkbox"/> 毎日（ ）回	<input type="checkbox"/> 週（ ）回
食料の調達	<input type="checkbox"/> 問題なし	<input type="checkbox"/> 問題あり（ ）	
調理器具・設備	<input type="checkbox"/> 問題なし	<input type="checkbox"/> 問題あり（ ）	
(IH使用)	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 使用方法を要説明	<input type="checkbox"/> 困難 (IH対応の鍋等)
	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 無し	<input type="checkbox"/> 購入予定
(電子レンジ)	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 購入予定 (その他)
	<input type="checkbox"/> 冷蔵庫	<input type="checkbox"/> トースター	<input type="checkbox"/> 保温ポット
食事の支度	<input type="checkbox"/> 問題なし	<input type="checkbox"/> 問題あり（ ）	
(配食の)	味つけ・量	<input type="checkbox"/> 問題なし	<input type="checkbox"/> 問題あり（ ）
		<input type="checkbox"/> 利用なし	
食事支援者（キーパーソン）	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり（ ）	

身体状況や食事摂取状況、食環境などの実態を踏まえたアセスメントを行い、必要な支援を講じる

アセスメント

<input type="checkbox"/> 食事づくりの意欲がない	<input type="checkbox"/> 栄養を考える意識がない
<input type="checkbox"/> 栄養の知識が不足している	<input type="checkbox"/> 調理の知識が不足している
<input type="checkbox"/> 食品購入の方法がない	<input type="checkbox"/> 調理器具・設備がない
<input type="checkbox"/> その他（ ）	

買物対策、食品管理や食べ方支援（簡単調理）、個別栄養指導など

仮設住宅名 (No. )

入居期間

入居前の居所

家族状況: 母子 独居(若 老) 高齢者のみ

面接氏名(調理担当者に○)	受診状況	健康状態	自覚症状	睡眠	飲酒	食生活	口腔	はりあい	備考欄	判別	
( )歳 男・女 職業	特になし 通院中	健康 良くも悪くもない 体調が悪い	なし 循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他) 消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	良い 地震前/後 寝つきが悪い	飲まない 時々	喫食(朝・昼・夕) 緑の野菜(有・無) 配食(有・無)	硬いもの食べにくい (有・無) 飲み込みにくい (有・無) むせる (有・無)	生活満足度 (満足・やや満足 やや不満・不満) 外出頻度 (週 回) 身近な相談相手 (有・無)		要対応・対応不要	
	入院・入所 治療中断	再掲 咳・痰 ( 日前から) 体重変化 有・無 ( kg増・減)	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味 の喪失・思考の抑制・他) 筋骨格系(肩こり・腰痛・他) その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	途中/早期覚醒 熟睡感がない 眠剤・安定剤 地震前/後	毎日 朝・昼・夜 量	たんぱく質(朝・昼・夕) 自炊状況(週 回)					
	特になし 通院中	健康 良くも悪くもない 体調が悪い	なし 循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他) 消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	良い 地震前/後 寝つきが悪い	飲まない 時々	喫食(朝・昼・夕) 緑の野菜(有・無) 配食(有・無)	硬いもの食べにくい (有・無) 飲み込みにくい (有・無) むせる (有・無)	生活満足度 (満足・やや満足 やや不満・不満) 外出頻度 (週 回) 身近な相談相手 (有・無)			要対応・対応不要
	入院・入所 治療中断	再掲 咳・痰 ( 日前から) 体重変化 有・無 ( kg増・減)	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味 の喪失・思考の抑制・他) 筋骨格系(肩こり・腰痛・他) その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	途中/早期覚醒 熟睡感がない 眠剤・安定剤 地震前/後	毎日 朝・昼・夜 量	たんぱく質(朝・昼・夕) 自炊状況(週 回)					
特になし 通院中	健康 良くも悪くもない 体調が悪い	なし 循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他) 消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	良い 地震前/後 寝つきが悪い	飲まない 時々	喫食(朝・昼・夕) 緑の野菜(有・無) 配食(有・無)	硬いもの食べにくい (有・無) 飲み込みにくい (有・無) むせる (有・無)	生活満足度 (満足・やや満足 やや不満・不満) 外出頻度 (週 回) 身近な相談相手 (有・無)		要対応・対応不要		
入院・入所 治療中断	再掲 咳・痰 ( 日前から) 体重変化 有・無 ( kg増・減)	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味 の喪失・思考の抑制・他) 筋骨格系(肩こり・腰痛・他) その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	途中/早期覚醒 熟睡感がない 眠剤・安定剤 地震前/後	毎日 朝・昼・夜 量	たんぱく質(朝・昼・夕) 自炊状況(週 回)						
特になし 通院中	健康 良くも悪くもない 体調が悪い	なし 循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他) 消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	良い 地震前/後 寝つきが悪い	飲まない 時々	喫食(朝・昼・夕) 緑の野菜(有・無) 配食(有・無)	硬いもの食べにくい (有・無) 飲み込みにくい (有・無) むせる (有・無)	生活満足度 (満足・やや満足 やや不満・不満) 外出頻度 (週 回) 身近な相談相手 (有・無)			要対応・対応不要	
入院・入所 治療中断	再掲 咳・痰 ( 日前から) 体重変化 有・無 ( kg増・減)	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味 の喪失・思考の抑制・他) 筋骨格系(肩こり・腰痛・他) その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	途中/早期覚醒 熟睡感がない 眠剤・安定剤 地震前/後	毎日 朝・昼・夜 量	たんぱく質(朝・昼・夕) 自炊状況(週 回)						

※緑の野菜 → ほうれん草、小松菜などを、1日1食以上、食べている場合は「有」



## 奥能登での活動

認定栄養ケア・ステーション (七尾市) 管理栄養士と派遣リーダー (行政、学校、地活等) を中心に活動

- ・ 2月3日 奥能登4市町JDA-DAT派遣開始  
→引き継ぎなど情報連携が不十分  
(連絡ノート、SNSとクラウドサービスを使用し情報連携体制の構築)
- ・ 現在、仮設住宅入居者への個別支援・集団支援 (県→石川県栄へ委託)



## 1.5次避難所での活動 (運営DMAT)

県栄フリーランス管理栄養士と派遣リーダー (医療、福祉等) を中心に活動

- ・ 1月8日 いしかわ総合スポーツセンター内に1.5次避難所開設 (水道・排水・加熱機器なし、電源不足)
- ・ 1月10日 夕食から食事提供開始 (1回150食、トト等既製品利用、嚥下調整食コード 1j,2,3,4)
- ・ 2月29日 体重等の栄養評価開始
- ・ 5月31日 食事提供終了 (栄養支援継続)

栄養士としての基礎的なスキルや知識、実践経験が重要 (栄養評価・食数管理・衛生指導や管理)



## 石川県栄養士会災害対策本部 (金沢市)

受援体制 (人員派遣調整、特殊栄養食品やアレルギー対応食品等物資調達・管理・輸送調整、情報発信や情報共有)

日本栄養士会  
災害対策本部  
1/2～3/31

## (参考2) 能登半島地震を踏まえた自治体管理栄養士対象研修

4月  
14日

全国保健所管理栄養士会「**緊急企画：活動報告会**」

➤ **被災地派遣における組織内調整状況や被災地での活動状況**

- ①石川県、②DHEATチーム、③保健師等帯同、④日本栄養士会JDA-DAT

4月  
20日

日本栄養士会「**47都道府県栄養士会公衆衛生職域リーダー研修会**」

➤ **行政とJDA-DATが連携した栄養・食生活支援活動**

- ①国（厚生労働省）、②JDA-DAT（災害対策事業部）→グループワーク

7月  
21日

全国保健所管理栄養士会「**スキルアップ講座No.1**」

➤ **官民連携による被災地栄養・食生活支援活動**

- ①国（厚生労働省）、②全国災害ボランティア支援団体ネットワークJVOAD、  
③国際NGOピコポド災害支援センター、④日本栄養士会、⑤石川県（保健所、市町）

10月  
29日

全国保健所管理栄養士会「**日本公衆衛生学会自由集会**」

➤ **公衆衛生関係職種が連携した栄養・食生活支援**

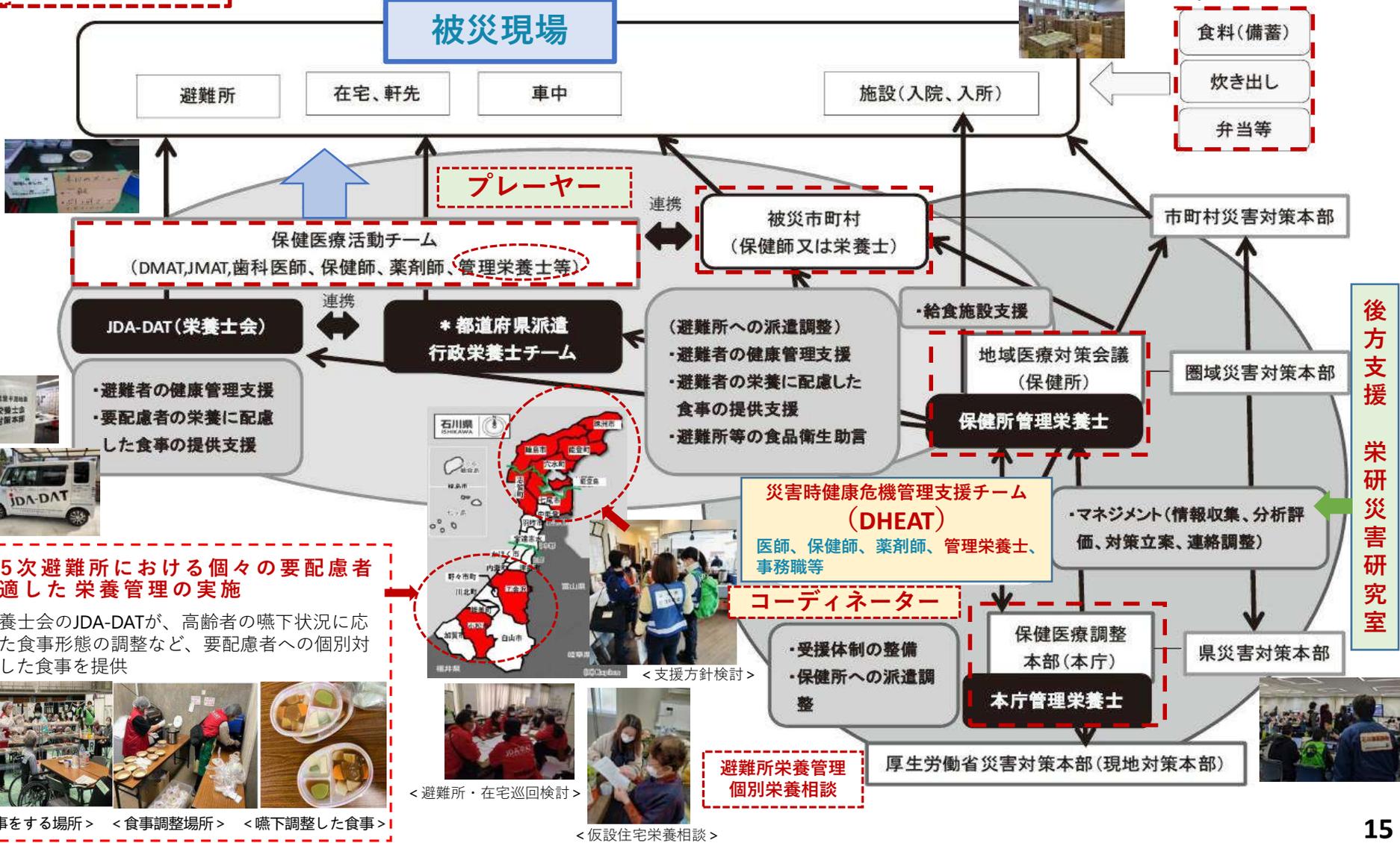
- ①DHEAT活動（保健所長）、②保健活動（統括保健師）、  
③歯科口腔保健活動（歯科医師）、④栄養・食支援活動（管理栄養士）

# 大規模災害時の栄養・食生活支援体制「能登半島地震」

**目的**  
 栄養不足の回避、  
 生活習慣病の予防  
 生活の質の向上等

ポピュレーションアプローチ「避難所栄養管理」  
 +  
 ハイリスクアプローチ「要配慮者栄養管理」

食事の量の安定的な確保とともに、栄養バランスの改善に資する物資の確保が必要  
 被災者の個々の状況に応じた対応が必要



## 1.5次避難所における個々の要配慮者に適した栄養管理の実施

栄養士会のJDA-DATが、高齢者の嚥下状況に応じた食事形態の調整など、要配慮者への個別対応した食事を提供



< 食事をする場所 >    < 食事調整場所 >    < 嚥下調整した食事 >

# 能登半島地震における栄養・食生活支援活動

## ～関連職種・団体との協働連携～

### 協働・連携

### 実現したこと

### 今後の課題

DHEAT

- ・被災地管理栄養士へのフォロー
- ・優先課題と活動の方向性の提示
- ・栄養課題や現場ニーズが保健医療福祉調整本部へ届く
- ・自治体栄養士派遣要請に繋がる

保健師

- ・栄養・食生活に関する情報量や情報の質が格段に良くなる
- ・保健チームと連携した避難所アセスメントや要配慮者情報の収集と対応

JDAT(歯科)

JDATと連携した食の要支援者情報の収集と対応

言語聴覚士

1.5次避難所での摂食嚥下評価

民間団体

被災者への食事提供（弁当、炊き出し等）の栄養・衛生管理指導

発災初期から管理栄養士による適切な栄養・食生活支援マネジメントが重要

- DHEATチームメンバーに管理栄養士の参画明記
- 自治体栄養士早期派遣
- 国直轄初期対応チーム検討

災害対応力の向上が重要

- DHEAT研修への管理栄養士積極的受講
- 県・市町村やJDA-DATとの合同研修
- 災害対応マニュアル整備、栄養士会との協定締結等

要配慮者の個々に配慮した食事提供が必要

- 企業及びアレルギー学会等と事前協定等締結
- キッチンカー等厨房設備の確保

# (最後に) 災害時の栄養・食生活支援活動

- ◆受援・支援の状況は時々刻々と変化する
- ◆災害時の受援・支援活動には、固定したシナリオはない
- ◆既存の知識・技術を活用し、それらを結び合わせる必要がある
- ◆個と全体との「間」を考慮しながら活動することが必要
- ◆被災者との協働が必要（自立援助）
- ◆多職種との連携が重要（支援チームの受け入れ）
- ◆コミュニケーションと尊重、プライバシーの保護

連携・繋ぐ

- 日頃の訓練により、自らの災害対策体制を確立、それが「受援」につながる。
- 災害が発生した際に的確に対応するためには、平時のうちに行えることは準備しておくことが必要。  
例えば、保健所や市町村と、関係団体等の間で、日頃から「顔の見える関係」を構築しておくことが必要。

## (参考3) フェーズに応じた栄養・食生活支援活動

フェーズ	フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
	初動期	緊急対策期	応急対応期	復旧期	復興期
	24時間以内	72時間以内	4日目～2週間	概ね3週間～1ヶ月	概ね1ヶ月以降
状況	ライフライン寸断	ライフライン寸断	ライフライン徐々に復旧	ライフライン概ね復旧	仮設住宅
想定される栄養課題	食料確保 飲料水確保  要配慮者の食品不足 (乳児用ミルク、アレルギー食、嚥下困難者、食事制限等)	支援物資到着 (物資過不足、分配の混乱)  水分摂取を控えるため脱水、エコノミー症候群	避難所栄養過多 栄養不足 栄養バランス悪化 便秘、慢性疲労、体調不良者増加  食生活上の個別対応が必要な人の把握	食事の簡便化  栄養バランス悪化  慢性疾患悪化 活動量不足による肥満	自立支援 食事の簡便化  栄養バランス悪化  慢性疾患悪化 活動量不足による肥満
栄養補給	高エネルギー食		たんぱく質、ビタミン・ミネラル不足への対応		
食事提供	主食(おにぎり・パン等) <b>水分</b>	炊き出し	弁当		
支援活動		避難所アセスメント、巡回栄養相談		栄養教育・相談	

## (参考4) 自治体と栄養士会との災害時の栄養・食生活支援活動にかかる協定

都道府県 栄養士会	締結年月日	締結先	表題
新潟県	平成9年2月14日	新潟県	災害時の救護活動に関する協定書
京都府	平成19年8月6日	京都府	災害時等における京都府栄養士会の協力に関する協定
広島県	平成25年2月15日	広島県	広島県災害時公衆衛生チームへの協力に関する協定書
鳥取県	平成25年3月25日	鳥取県	災害時における鳥取県栄養士会の協力に関する協定書
岩手県	平成27年2月6日	岩手県	災害対策基本法に基づく指定地方公共機関の指定
徳島県	平成28年2月18日	徳島県	大規模災害時における災害支援活動に関する協定書
神奈川県	平成28年4月26日	神奈川県	災害時の医療救護活動についての協定書
岡山県	平成28年8月19日	岡山県	岡山県災害時公衆衛生活動への協力に関する協定書
鹿児島県	平成29年3月30日	鹿児島県	災害時における栄養相談等の支援活動に関する協定 災害時における栄養相談等の支援活動に関する協定実施細目
兵庫県	平成29年3月30日	神戸市	災害時における栄養・食生活支援に関する神戸市と公益社団法人兵庫県栄養士会との協定
高知県	平成29年5月15日	高知県	大規模災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
兵庫県	平成29年5月22日	兵庫県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する兵庫県と公益社団法人兵庫県栄養士会との協定書 災害時における栄養・食生活支援活動に関する兵庫県と公益社団法人兵庫県栄養士会との協定実施細目
石川県	平成29年6月30日	石川県	災害時の医療救護等に関する協定書
鹿児島県	平成29年9月27日	鹿児島市	災害時における福祉避難所等の人的支援に関する協力協定書 災害時における福祉避難所等の人的支援に関する協力協定書細目
大阪府	令和元年5月8日	大阪府	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
大阪府	令和元年5月28日	大阪市	災害時における栄養・食生活支援に関する大阪市と公益社団法人
長崎県	令和元年10月18日	長崎県	災害時の栄養・食生活支援活動に関する協定書
愛知県	令和2年3月24日	愛知県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
三重県	令和2年3月25日	三重県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
佐賀県	令和2年4月27日	佐賀県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
埼玉県	令和2年8月25日	埼玉県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
栃木県	令和2年9月24日	栃木県	災害時における医療救護活動に関する協定書
愛媛県	令和2年10月15日	愛媛県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定
東京都	令和2年12月28日	東京都	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
岐阜県	令和3年3月22日	岐阜県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書
山形県	令和3年3月24日	山形県	災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定書

長野県	令和3年5月20日
山梨県	令和3年9月17日
滋賀県	令和3年10月22日
山口県	令和3年3月19日
大分県	令和4年11月21日
静岡県	令和5年3月28日
奈良県	令和5年4月20日
東京都墨田区	令和2年10月28日
東京都練馬区	令和3年1月14日
東京都足立区	令和3年12月27日
東京都国立市	令和4年3月28日
東京都葛飾区	令和4年3月31日
東京都八王子市	令和4年9月26日
東京都東村山市	令和5年2月8日
東京都台東区	令和5年3月14日
東京都板橋区	令和5年4月1日
東京都清瀬市	令和5年9月15日
<b>30都府県2政令市5市6区締結済</b>	
<b>計43自治体 R5.11月末</b>	

令和3年3月24日現在 24都府県3政令市締結済